

歴史が消そうとした夜 — 天安門事件、その全貌と真実

1989年6月4日、あの日何が起きたのか？



Noto Sans JP Regular

これは単なる歴史の勉強ではない。権力と記憶、そして自由をめぐる、人類の魂の物語である。

1989年6月4日|



検索しても何も出てこない日

37年の沈黙 14億人の空白

中国のインターネットで「1989年6月4日」と検索しても、そこには広大な空白が広がるだけである。

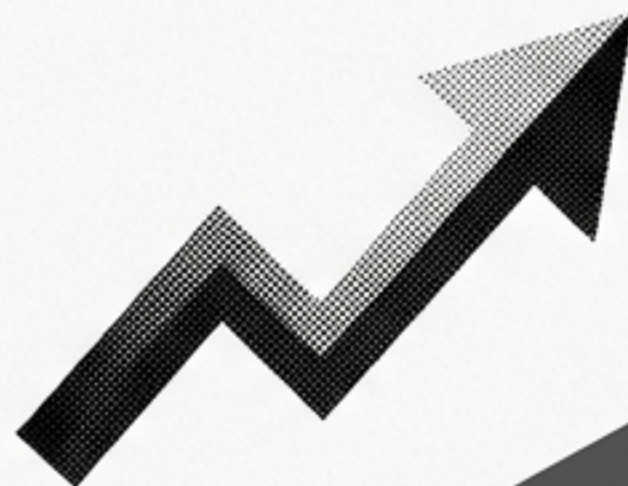
なぜ、たった一夜の出来事を消し去るために、
国家は37年もの歳月を費やし続けているのか？

これは中国共産党が「越えてはならない一線」を越えた瞬間の記録である。

1980年代：繁栄の「光」と、忍び寄る「影」

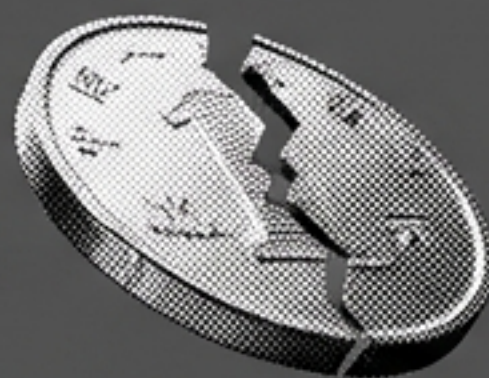
THE LIGHT

- 鄧小平による「改革開放」
- 深圳（シンセン）の劇的な変貌：
貧しい漁村から近代都市へ
- 年平均成長率 **58%** を記録



THE SHADOW

- 急激なインフレと蔓延する汚職
- 目に見えて広がる貧富の格差
- 流入する資本と共に持ち込まれた
「民主主義」という思想



「経済は豊かになった。だが、政治はどうだ？」——繁栄の影で火種は燻っていた。

1989年4月15日：改革派の死と怒りの爆発

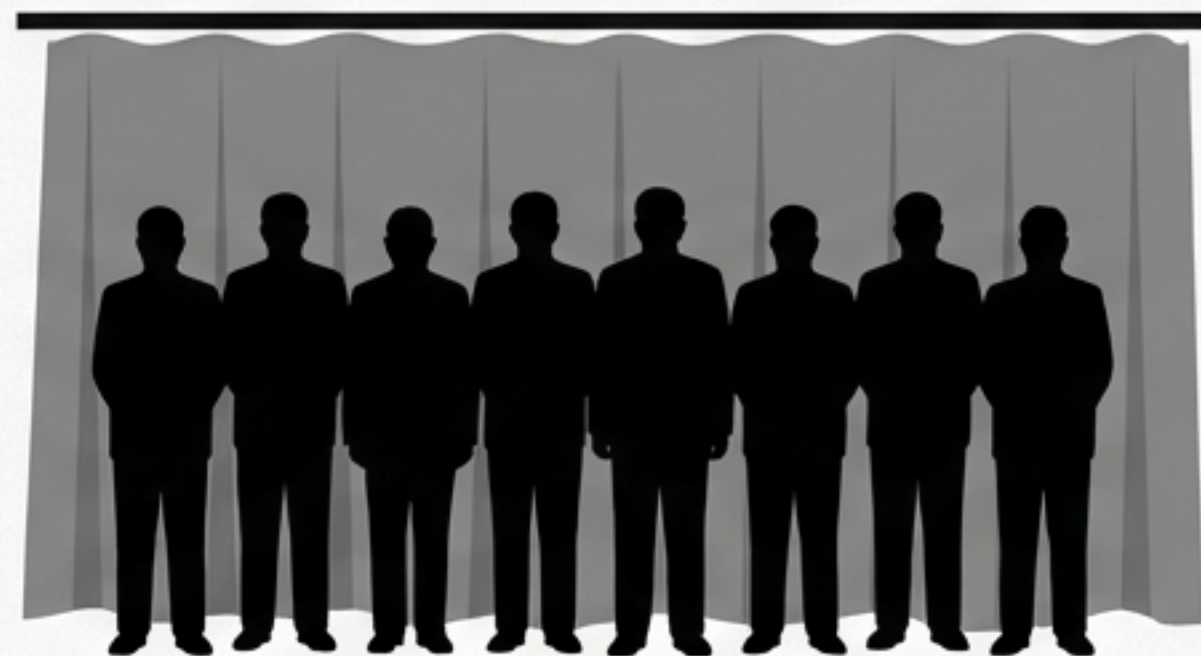


胡耀邦（コ・ヨウホウ）

元総書記。彼は学生に「寛容」であったがゆえに失脚させられた希望の星だった。

追悼活動が抗議デモへ

壁としての「八大元老」



八大元老（はちだいげんろう）
公式な役職を持たずとも絶大な権力を握る8人の長老たち（鄧小平を含む）。彼らの合意なしには重要な決定ができない「影の支配者」。

結果：数万人の学生が天安門広場を埋め尽くした。

革命ではなく「対話」を求めた若者たち

「私たちは暴徒ではない。特権でも富でもなく、ただ声を聞いてほしい。」

Profile Card



王丹 (ワン・ダン)
北京大学 学生リーダー

寮の一室で「民主主義塾」を開き、同志を結集

彼らが求めたのは、国家転覆ではなく、政府との対話という切実な願いだった。

広場を揺るがした「7つの要求」

- 
1. 胡耀邦の民主主義的見解の正当性を認めること
 2. 「民主化＝悪」とする批判キャンペーンの撤回
 3. 国家指導者の資産・収入の公開
 4. 民間メディアの活動許可と検閲の停止
 5. 教育への投資増額と知識人の待遇改善
 6. 抗議活動への弾圧停止
 7. 要求を公式メディアで報道すること

KEY TAKEAWAY

彼らが突きつけたのは「透明性」と「改革」。しかし、党指導部にとってそれは一党独裁への一党独裁への宣戦布告に他ならなかった。



分裂する政府：融和か、弾圧か



趙紫陽(チョウ・シヨウ)

総書記

Noto Sans JP Regular

立戦

「学生の要求には
正当性がある」

アプローチ

民主的な解決を模索

Noto Sans JP Regular

李鵬 & 鄧小平

首相 & 最高実力者

Noto Sans JP Regular

立戦

「これは動乱だ。
弱腰になるな。」

アプローチ

徹底的な弾圧を主張

Noto Sans JP Regular



4月26日 人民日報社説

Noto Serif JP Heavy

行動 学生運動を「動乱」と断定

結果 学生の怒りに油を注ぎ、デモは100万人規模へ。

TURNING POINT

運命の5月：ハンガーストライキと世界の目

● May 13

絶食抗議（ハンガーストライキ）開始

「政府が対話に応じるか、若者が死ぬか。選べ」

● May 15

ゴルバチョフ書記長 歴史的訪中



世界中のメディアが北京に注目する中、映し出されたのは友好の握手ではなく、広場で命を削る学生たちだった。



鄧小平にとって、これ以上の屈辱はなかった。

最後の涙と戒厳令



「来るのが遅すぎました。どうか断食をやめてください」

5月19日

● 趙紫陽、広場に現る。直後に失脚、終身自宅軟禁へ。

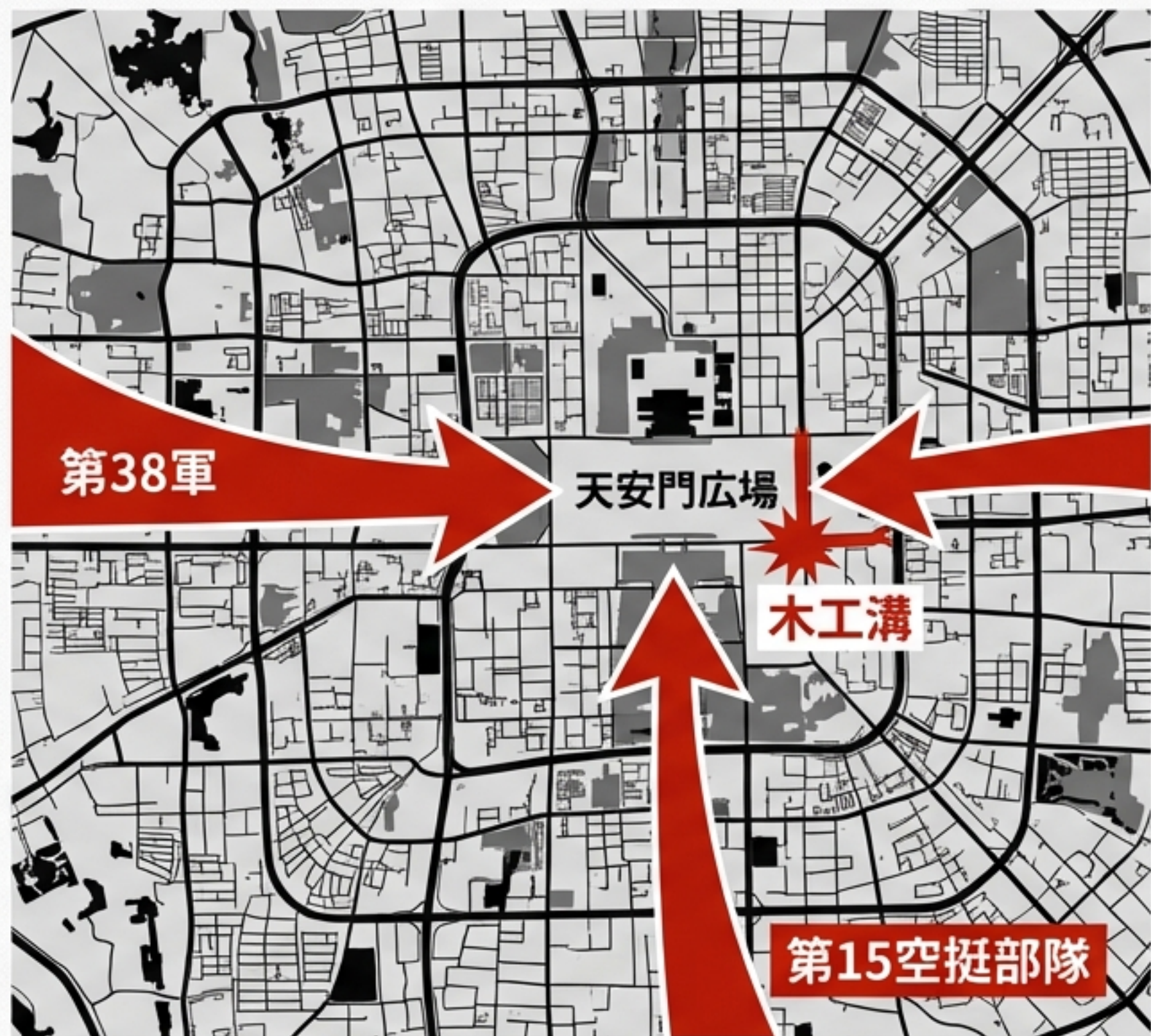
● 趙紫陽、広場に現る。直後に失脚、終身自宅軟禁へ。

5月20日

● 戒厳令発令

対話の時は終わった。

悪夢の夜：1989年6月3日



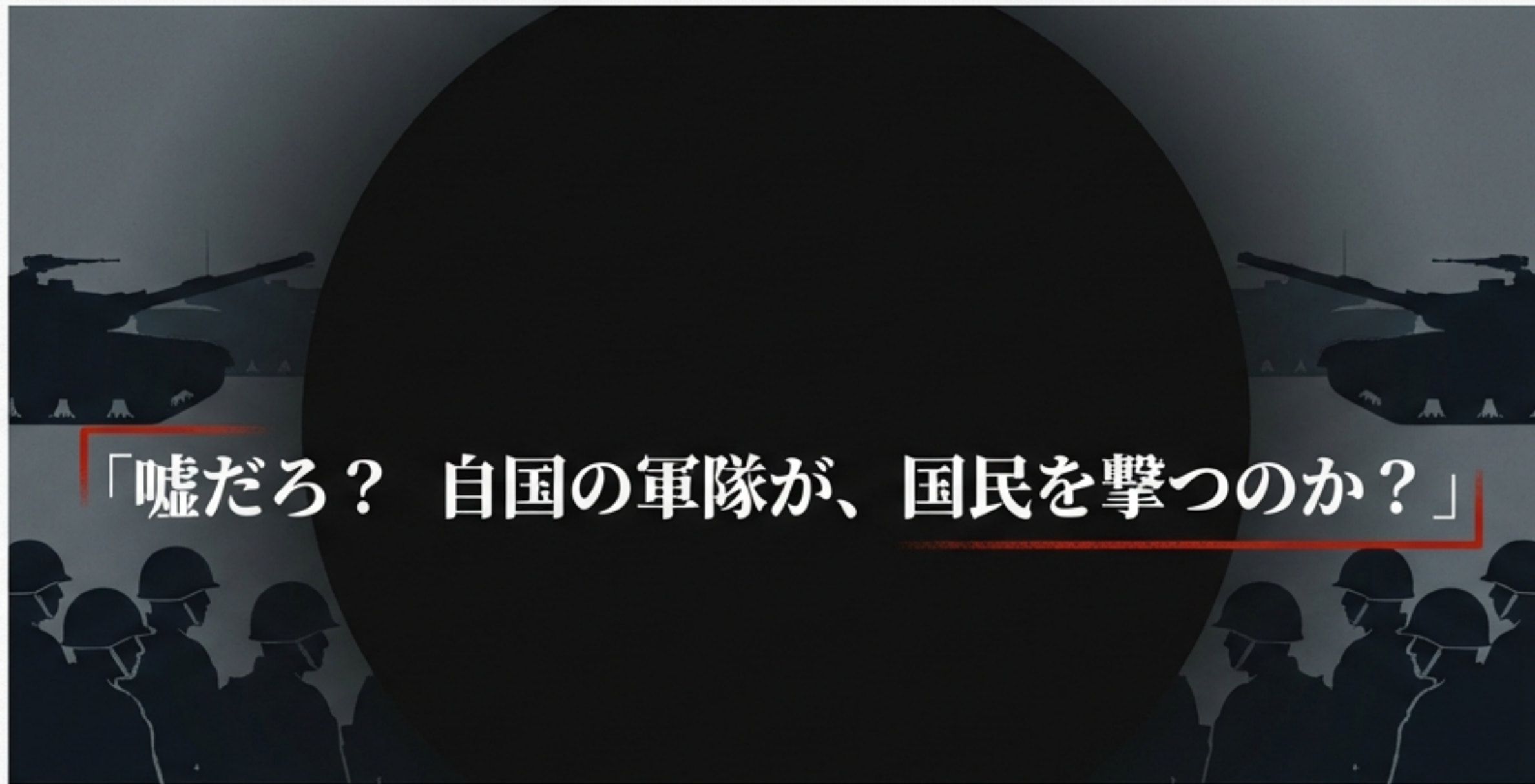
動員兵力：30万人

命令：警告なし、容赦なし

「いかなる代償を払ってでも
広場を制圧せよ」

実弾が発射され、戦車がバリケードと人
を乗り越えて進軍を開始した。

6月4日 午前4時：広場の消灯



広場の照明が一斉に消え、暗闇の中で軍が学生たちを完全に包囲。
王丹たちは、星も見えない重苦しい夜空を見上げていた。

多くの学生は撤退を選んだが、正確な死者数は今も闇の中である。

タンクマン (戦車男)

1989年6月5日



白いシャツを着て買い物袋を提げた一人の男が、戦車の列の前に立ちはだかった。

彼が誰で、その後どうなったのかは誰も知らない。

「国家暴力に対する個人の尊厳」

脱出作戦「イエローバード」

協力者と目的

協力者：西側情報機関、香港活動家、マフィア組織

目的：学生リーダーの救出

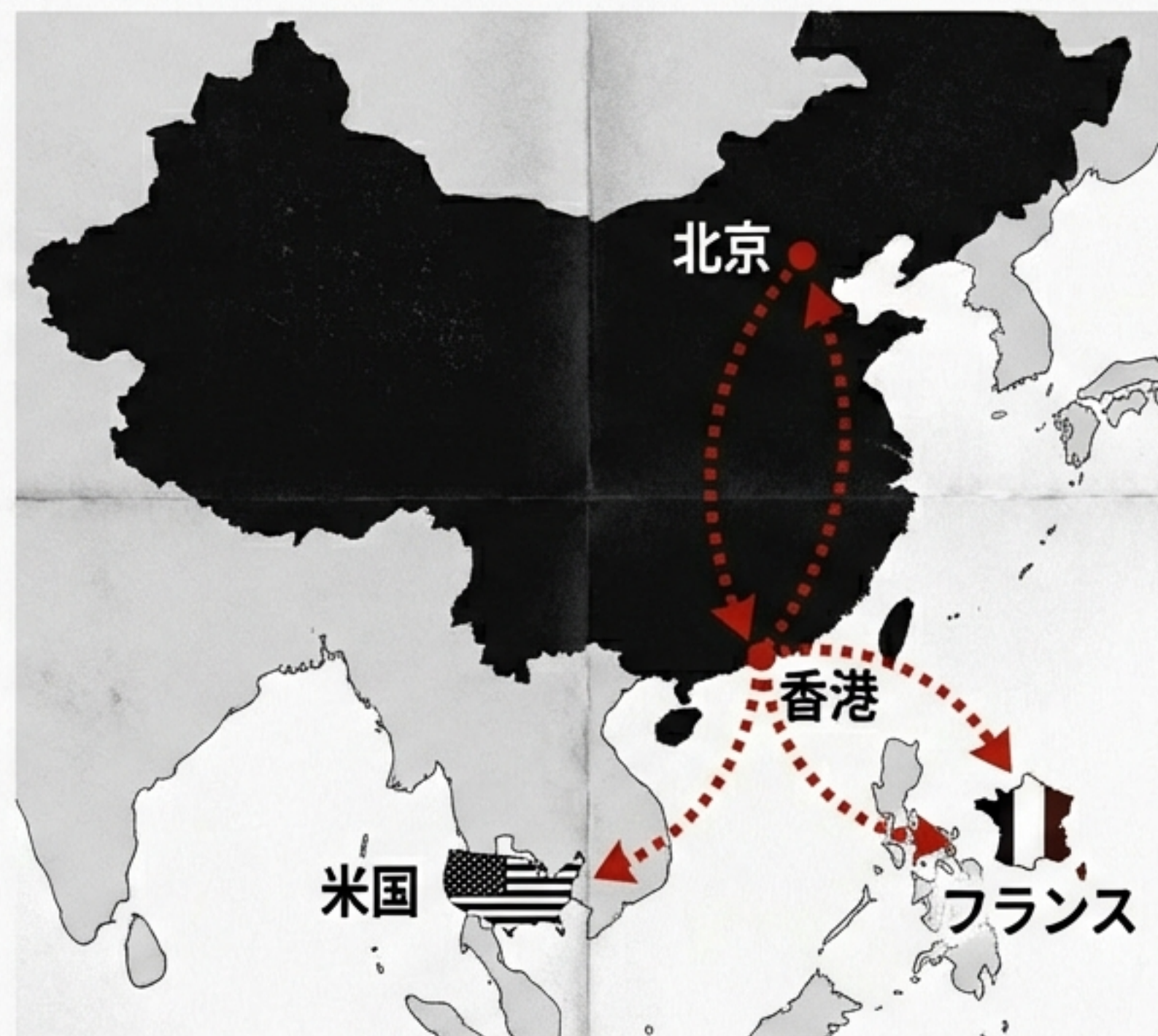
成果

成果：約400人を海外へ逃がすことに成功

王丹の運命

「自分は間違っていない」と逃亡を拒否。

逮捕、投獄、そして米国への亡命。



記憶こそが、権力が唯一 支配できない領域

教科書にも載らず、SNSでも語れない。
今の中国の若者は、あの戦車の写真の意味さえ分らない。



情報の隠蔽は、物理的な弾圧以上に恐ろしい歴史の改竄である。

私たちが今、自由に情報を得られるのは当たり前ではない。
それは先人たちが血を流して勝ち取った「奇跡」なのだ。

事実を消すことはできても、 真実を殺すことはできない

知ること。覚えていること。そして、語り継ぐこと。

それが、名もなき勇者たちへの最大の手向けであり、私たちが守るべき「自由」への責任である。

歴史を知ること、未来を守ることだ。